

## 世界へ「物・事・考え」を伝える日本語講座

—日本語が書けないと、  
英語で書くことができない—

多くの日本人は、日本語とその文化が抱えている問題について考えたことが無いと推察する。「文化が言語を作り、言語が文化を育てると言うことに対して無神経であるから、母国語と英語を対比する視点を持ち合わせていない。(2018/11/11)

# もくじ

## 井上ひさし講座: 留学生支援を目的とした「日本語教室」

- 01.日本語が書けないと英語で書くことが出来ない
- 02.美しい日本語と曖昧日本語
- 03.特殊な日本語表現が、グローバル化への足かせとなる
- 04.夏目漱石の文章は、翻訳を意識して書かれている

## 他言語と互換性の取れた、世界へ開かれた「オープンな日本語」で書こう

- 05.日本語の使い分け
- 06.互換性ある言語で書く
- 07.英語学習の目的
- 08.日本語の特性を知る(1)(2)
- 09.AI時代、翻訳ソフトが使える日本語で書こう
- 10.「シノハラ語録」10選
- 11..国際共通言語としての英語

## 米国の大学では徹底した指導によって、学術文体を学生に取得させている

- 12.Knuth 教授の英作文指導より(スタンフォード大学計算機科学科)
- 13.分かりやすい文章とは
- 14.理工系学部の英語教育について
- 15.ウイスコンシン大学「Scientific Report」より抜粋
- 16.文書構成の3要素:「心・技・勇」
- 17.英語へ変換できる文書構成と文章の記述

# 日本語が書けないと 英語で書くことができない

## 井上ひさし講座:留学生支援を目的とした「日本語教室」

井上ひさしさん(故人)が、日本語教室(新潮新書)で、木下是雄先生(当時、学習院大学理学部教授)の『理科系の作文技術』(中央公書)について、素晴らしい御本だと述べている。

『木下先生の教え子たちが、一生懸命に自分たちの研究を英語で書こうとしても、ぜんぜん書けない。書いてもめっちゃくちゃなのです。木下先生は、さんざんそれを観察して考えました。そして結局、教え子たちは日本語を知らない、日本語を知らないから英語も書けないのだ、ということに気づいた。そこでハッキリしたことは、英語でなければ世界の人たちに読んでもらえないという事実です。英語を母語としていない学者たちも今では英語が必要です』と。(原文を引用)

井上ひさしさんは、『日本語とはどのような言語なのか、外国語を勉強することで見えてくる。外国語が上手になるためには、日本語をしっかり身につける。それは、たくさん言葉を覚えるということだけでなく、日本語の構造といった大事なところを自然に、しっかりと身につける事が大事です』と述べている。

そして、日本語の成り立ちを分かりやすく、興味深く、講義している。『私たちはいま、昔からのやまと言葉である和語と、中国から借り入れた漢字を使った漢語と、欧米から借りた外来語を一緒にして、微妙に使い分けながら生活しています。ですから外国人は、理解するのに苦労していると思います。日本人は「世界に開かれた日本語」を持つことが必要です。伝えたいことことは、他人に理解してもらわなければいけません。このことはどんな言語でも共通していることです。』と。

## 「美しい日本語」と「曖昧な日本語」

12月はノーベル賞の話題が多く取り上げられている。過去にノーベル文学書を受けた川端康成氏と大江健三郎氏の受賞スピーチについて、池上彰氏が興味ある解説をしていた。『川端康成は「美しい日本の中の自分」、大江健三郎は「曖昧日本の中の自分」という内容であった。川端康成は、美しい日本から生まれる叙情的な美しい言語の利点(日本文化を感じられる日本の美)について、大江健三郎は、曖昧日本から生まれる曖昧言語の弊害(世界から取り残される)についてスピーチした』と。

井上ひさしさんも、この書籍の中で大江健三郎さんのことを述べている。『大江健三郎さんがノーベル賞を受賞したときの講演は、「あいまいな日本の私」という題でした。「あいまい」は日本にかかるのか、「私」にかかるのか分かりません。そこが大江さんの狙いだったわけです』と。

### 大江健三郎・柄谷行人全対話：世界と日本と日本人（講談社）

**1.世界言語の可能性について:**「ある言語を持った人間が、それを他国の言語、例えば英語に翻訳して、いい伝達のされ方をするような表現が日本語に出来ていれば良い」「日本語で書きながら世界言語でもありうるような表現を日本人がしていく。とくにこれからの若い人たちがして行くことを心から望んでいる」と。

**2.特殊な日本語の普遍的な表現について:**「英語に翻訳されてしまうと自分の考え方や思考の展開の仕方、書き方が本当に壊滅的打撃を受けます。しかし特殊な日本人、特殊な言語である日本語を使って普遍的なものを書きたいと言う気持ちが高い」と。

## 特殊な日本語表現が、 グローバル化への足かせとなる

### ◇法令の翻訳、一割どまり(日本経済新聞 2018/10/22)

「日本の法令の英訳開始は、09年4月に遡る。司法制度改革の一環で、政府が、「ビジネスのグローバル化に対応するには法令の適切な翻訳が不可欠」との方針を打ち出し、法務省の所轄事業として始まった。ただ壁となるのが翻訳人材の確保だ。英語と法律に精通する人は限られている。法令の翻訳は、専門的で難易度が高い」と。

### ◇外国人児童の高校の中退率9%超え(朝日新聞 2018/09/30)

「外国人児童(日本籍・外国籍)が高校に進んでも日本語の壁、授業の言葉は難しい。特に物理や生物は日本語が難しい。日本語は日常会話なら大丈夫。しかし書く、読み取りとなれば、これほど難しい言語は無い」と。

### ◇例えば、「私は悪い、私が悪い」の区別が難しい

当社へ入社(1992年)して間もなかった「中国人社員」が言ったことが印象に残っている。彼女が言うには、「私は悪い、私が悪い、の区別が出来ず困っている」とのことであった。日本人は、この区別ができるが外国人にはとても難しい。「私は、悪い」は、属性を表し、その人は悪い人である。「私が、悪い」は、ある出来事(事件)に関して、たまたま「私が、悪い」のであって時制の限定がある。そこで、彼女は、「が」と「は」をすっ飛ばして「私、悪くない!」と言うようにしたそうだ。否定文であれば「私は悪くない」これは通じる。しかし「私が悪くない」となれば日本人でも通じない。外国人にとって日本語の何処が理解しにくいのか?こんなことをアレコレと考えて日本語を見直すと面白い。要するに日本人は外国人に対して分かりやすく説明する努力が足りない。

## 夏目漱石の文章は、 翻訳を意識して書かれている

### 難解あるいは、難解が尊し(たつとし)

本年は(2016年)、夏目漱石が亡くなって100年ということで、漱石ブームである。漱石の代表作「我輩は猫である」に、訳の分からない手紙を受け取って、猫の主人である苦沙弥(くしゃみ)先生がやたら感心する場面がある。

”なかなか意味深長だ。何でもよほど哲理を研究した人に違いない。天晴れな見識だ”と大変賞賛した。この一言でも主人の愚なところはよく分るが、翻って考えて見ると聊か(いささか)尤も(もつとも)な点もある。主人は何に寄らず わからぬものをありがたがる癖を有している。これはあながち主人に限った事でもなかろう。分らぬ所には 何だか気高い心持が起こるものだ。それだから俗人は 分らぬ事を分かったように吹聴するにもかかわらず、学者は 分かった事を分らぬように講釈する。

この名作は百年前に書かれたものだが、これを見ると「分らない文章をありがたがる」性癖は、世間一般において、いまだに受け継がれているようだ。日本では難解文章はいろんなところで見受けられる。

**関連書籍の紹介:「論文の書き方」(澤田昭夫著、講談社学術文庫)という本がある。**

その「はしがき」に澤田教授が次のように書いている:「…われわれが自分の考えをまとめて有効に表現するという訓練を日本語でも受けていない…」、この本は1977年、いまからちょうど四十年前に書かれているのだが、どうも事態はいっこうに改善されていないと思われる。

## 他言語と互換性の取れた、世界に開かれた「オープンな日本語」で書こう

世界の人々に何ごとか(物・事・考え)を伝えるためには、好むと好まざるに関わらず、得意である苦手であるに関係なく、論理的に明確に、そしてそれらを明快に記述する能力を高めなければならない。この、世界の共通事項を論理的に明確に語るための日本語を、「オープン日本語」が不可欠である。世界の人たちに理解して貰うための言語、このことは、どんな言語にも共通していることである。

### 日本語の使い分け

#### 文化に根ざした「文化日本語」と、「文明日本語」

我々日本人は、日本文化の色合いが強い情感豊かな「日本語(文化日本語)」と、「物、事、考え」を伝えるための平明で(普遍的な表現の日本語)明確な日本語、即ち「文明日本語」を使い分ける能力を持っている。ただ、そのことを強く意識しないで過ごしてきただけのことである。単なる意識の問題であるから日本人の英語苦手も悲観することではなさそうだ。

## 互換性ある言語で書く

### 互換性ある文章の重要性

ハードウェアおよびソフトウェア技術に基づく製品は、周知のように、他の製品と「互換性」がとられていなければ市場で栄えることはできない。文書の世界においても、そこで記述されている知恵や技術を世界の中で流通させるためには、できるだけ互換性のとれたものでなければならない。他言語と互換性のある、すなわちオープンな日本語で記述するスタイルを確立していくことは、これからの日本にとって極めて大きな課題であると、我々は確信をしている。

## 英語学習の目的

### 英語学習の目的を何処に置くべきか

英語を扱う能力を身につける価値は、母語である日本語での表現力、特に論理的に明確に表現する能力を向上させる上で、大きな支援になるはずである。日本語だけしか扱えなければ、論理的に明確な文章を書け、といわれても、どこをどうすればよいのか、なかなか見当をつけにくいだろう。

日本人は、外国人の言っていること、記述していることを理解しようと努力をする。そして最後は、醤油味をつけて流暢な日本語へ転換して理解する能力を持つ。しかし多くの外国人は、そのような努力はしてくれない。



## 日本語の特性を知る (1)

### 叙情には強いが論理的表現には弱い日本語

英語やその他の外国語を学習することは、日本語の特性を理解する手がかりを得ることになる。日本語の特性は、情緒を述べることに、すなわち叙情には強いが論理的表現には弱いところにある。欧州言語は、この日本語に比べて、明らかに論理的表現に適した構造をもっている。

## 日本語の特性を知る (2)

### 情緒的表現は強いが普遍的表現には弱い日本語

情感として何らかの感動を与える文章の世界ではなく、伝えたい事実・提案・計画等を正確に理解し、受け入れてもらうための文章は、正確さが第一であり読んで支障なく頭に入っていく素直さが第二である。それらを実現するためには、論理的に明確な記述であることが土台となる。

情緒というものは文化と密着しているものであり、外国語を習ったからといって、外国の文化が、そう簡単にわかるものではない。きわめて限られた専門家しか修得できない分野である。

## 英語へ転換できる日本語

### AI時代、翻訳ソフトが使える日本語で書こう

まずは、英語に転換できる、普遍的に表現した「文明日本語」を日頃から意識していれば英語に慣れるのは早いと思う。英語に転換できる「平明日本語」であれば機械翻訳ソフトの支援も受けられる。英語辞書を、いちいち引く、手間がなくなる。そのぶん負担が軽くなり英語勉強の能率は上がるはずだ。

中学、高校、大学での英語教育で重要なことは、論理的思考と普遍的表現を必要とする自然科学・技術の分野と、政治・経済・社会といった社会科学の分野で英語を学習することにある。ところが、日本では、論理的であるという英語の特性を教えられず、日本語で論理的に表現する学習にも結び付けられていない。

学習科目によって文章の書き方は、それぞれ違うことは誰もが承知している。例えば、理科実験のレポートは「見たまま、ありのまま」を厳密に書くことで、情感が入り込む余地はない。社会科のレポートは、与えられたテーマに対して、筋道を立てて分析することが求められる。その分析結果に対して自分の考えを正直に述べていくことになる。

一方、国語教育は、美しい日本語を伝承させるための日本語教育も含まれる。時には文学書の力を借りて、読み手を引き込む「文才」を学ぶこともある。小・中・高等学校で、このことを意識した「メリハリ」のある言語教育をすれば、学習科目、あるいは目的に合った文章が書けるようになっていくのではなかろうか。

## シノハラ語録 10 選 (1)

1. 外国語の勉強は、日本語の特性を理解するには有効と考える。日本語は「情感」の表現には向いているが「論理的表現」には向いていない。
2. 外国語を学習する時は、「彼等は、何故そのような表現方法を採用のか、何故そのような言い方をするのか」を、まず理解することが基本である。
3. 我々日本人は、日本文化の色合いが強い情感豊かな日本語と、「物、事、考え」を伝える明確な日本語を使い分けることができる。ただ、そのことを意識していないだけである。
4. グローバル社会で求められることは、まず世界との橋渡しができる言語、即ちオープンな英語を身につけることである。
5. 英語で記述されている「物、事、考え」と同じ内容を「日本語で明快に表現する訓練」を学校教育で行えばグローバル人材の底上げに繋がる。
6. 日本人は、論理力を鍛えて「物・事・考え」を伝える為の第二母語としての「文明としての言語」、即ち、「文明日本語」を持つ必要がある。
7. 「文明言語」であれば、文化と民族は異なっても物を見る方法、考える方法、原理や技術の説明、社会の仕組みやシステムなどを世界の人々へ伝えることが容易になる。

## シノハラ語録 10 選 (2)

8. 論理思考とはどのような思考回路のことか。それは「物、事、考え」を明確に突き詰め、曖昧と矛盾がなく、かつ一義的に整理された表現、あるいは文章を書ける思考のことである。

9. 英語に転換できる日本語を意識すれば英語文章の構造が見えてくる。しかも翻訳ソフトの支援が得られ易くなる。英語学習の効率も格段に上がり、いつの間にか英語に慣れていくこと保証付きである。

10. 日本が、あるいは日本人が世界から共感を得るためには、まず、世界の人々とコミュニケーションができる、「開かれた日本語」すなわち、第二母語としての「文明日本語」を身につけることが早道と考える。

### 【纏め】

グローバル世界で求められることは、まず世界との橋渡しが出来る言語である。無事に橋を渡ることができ、不自由なく行き来ができるようになれば、次はいよいよ日本文化に根ざした「文化日本語」が武器になる。「文化日本語」は世界の人々が持っていない、共生(自然や人間と)の精神と相手を思いやる優しさが根底にある。

人間の優秀さと論理力は必ずしも結びつかない。日本人としてのアイデンティティを見失うことなく対峙していけば世界の人々から日本が、あるいは日本人が信頼され、尊敬されるに違いない。

## 国際共通言語としての英語

### なぜ英語が、今の位置を享受できるようになったのだろうか

- (1) 英語は、物事や考えを論理的に表現するのに適した言語である。
- (2) 英語は、論理的に記述するのに適した言語である。
- (3) 英語は、構造的にしっかりした言語である。
- (4) 構造的であることは、表現の形式において自由度が少ないことである。
- (5) これは、外国語として学習しやすい言語、つまり、習う人の民族文化に影響されずに、頭でその法則を理解すれば学習の基本が得られるということになる。
- (6) 元来の英語には欠けていた人間の思索、技術、社会体制等を表現するための高度な単語をラテン語から借用してきて整えたので、完成度と普遍性をもっている言語である。
- (7) ということは、コンピューター(翻訳ソフト)にも易しい言語でもある。
- (8) 19世紀に始まった科学技術、工業化、システム化文明の時代は、論理的記述を必要とし、そのニーズに適した言語であった。
- (9) 同時にこの二十世紀は、英語を母語とする英国と米国が、圧倒的な政治、経済、軍事力の優越を維持し続けた世紀であった。この結果、米国式のグローバル化が急速に進展した。
- (10) グローバルなシステムを経営・運営するためには、そこで使われる言葉をできるだけ一本化することが効率上必要であった、それが英語である。

結果として、唯一の国際共通語としての英語の位置は、ますます強固になるばかりである。英語習得において、日本人は世界の中でもっとも不利な条件下にある。我々がどれほど不利な戦いを強いられているかは、考えるだけでも憂鬱になるほどであるが、まさか今更、鎖国をするわけにもいかず、逃げるわけにはいかない。これは戦いと共生だから、この武器(ツール)の扱いができるだけ上手になるように修得するしかない。(2007/10/10 篠原泰正)

早く  
改善すべき！



米国の大学では徹底した指導によって、  
学術文体（英作文）を学生に習得させている



世界の人々にもものごとを伝えて正確に  
理解してもらうには文書は論理的に  
記述する必要がある

『明快な表現』ということに対して

日本人はあまりにも無頓着で

何の努力もしていない

技術の説明には文才は要らない

事実をありのままに記述するだけで良い

必要なのは読み手に理解してもらおう

という『心』である

日本人が世界に向けて発行している  
『文書(技術文書等)』は、まことにお粗末である

文書は論理的に構成され、文章は  
他言語に変換(翻訳)することを  
意識して日本語文章を書くこと  
日本語文章は論理的にそして  
簡潔に記述すること  
明快・論理的に記述された日本語であれば、  
機械翻訳の支援が受けられ、  
翻訳の負担は軽く、能率があがる。

世界から日本人の知性が問われている

Knuth教授の英作文指導より

スタンフォード大学計算機科学科

Try to make sentences easily comprehensible from left to right

米国の大学では、徹底した指導によって

結論・判断が先行(主節)

具体的説明は後続(従節)

という学術的文体を、学生に習得させている。



具体的な事柄を概括する語、または上位の概念を表わす語を用いて概念を先に述べ、次に具体的な事柄を記述する。こうすると、左から右へと文章の流れに沿って筆者の認識内容を、読者が理解しやすい。TEXの開発で著名なKnuth(スタンフォード大学)は、“Mathematical Writing”のなかで、学習者の数学論文を、添削例を多数表示して、語っています。

## 世界へ「物、事、考え」を伝えるには「平明日本語」で書くこと

### わかりやすい文章とは

1. 文章はなるべく短くする  
★長文は悪文
2. 文章に流れを持たせるようにする  
★くどい、しつこいはゴミ溜めと同じ
3. どちらともとれる文章にしない  
★一義的に解釈できるようにする
4. 動詞を意識する。主語は？  
★「何を、どこに何する」  
主語と目的語を選ぶ

### 自分たちが書く日本語が「意味不明」ということが判っていない？

1. 日本の技術者は、文章で論理的に事実を説明する訓練を受けていない。学校においても、社会に入ってから、論理的に明確に、明快に記述する訓練は行われていない。
2. 従って、日本の技術者は論理的に表現する必要性に対する認識の薄さと、その結果として出くる、表現方法の錬度を高める努力が欠如してる。
3. 製品の生産方法や品質では日本は世界の頂点に立つことができている。しかし、そのことを説明するために必要な「言語」については誰も改善に取り組んでいない。だから「どのように書くべきか」の標準仕様書が社内には存在していない。また、理工系学部の英語教育が適切であるかを考え直す時期にある。
4. 日本の外に一步出ると誰も理解できない不明瞭な日本語や和製英語で、発明から製品まで、生産方法から社会システムまで、記述しているがために、企業の輸出で稼いだお金の何パーセントかは言語不備のために失っている筈だ。統計に表れることはないが、有形無形での損失は極めて大きいと思う。



## 理工系学部の英語教育について

### 1. 英語の論理性を教える

★英語は何故、そのような表現をするのか

### 2. 英語思考を教える

★思考の順序が記述の順序に反映されることを認識し、

★英語と日本語の記述(順序)の違いを徹底させ、

★英語の順序で内容を処理(把握)することに慣れる

### 3. 英語文書の展開法と、その構造を教える

★一つの文章を構造的に眺め分解し、主と従たる部分を認識

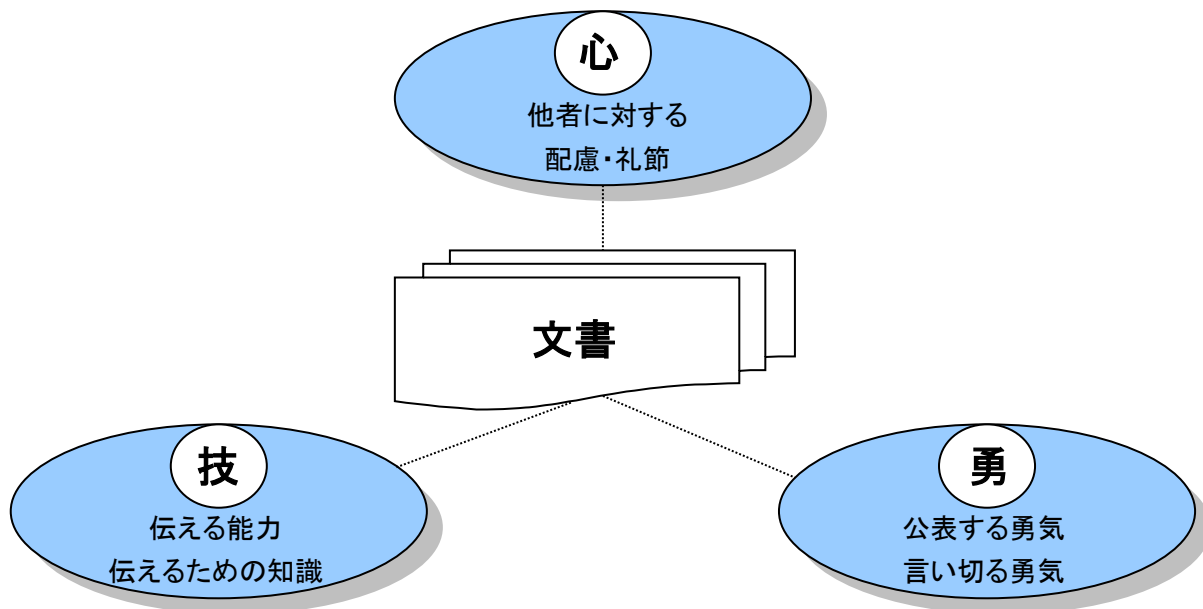
★いつもWhy、何かあったらWhy、構成要素は図解で分析する

## ウイスコンシン大学『Scientific Report』より抜粋

1. できるだけ能動態で書くこと
2. 動きを動詞で表すこと；名詞で示さないこと
3. 長ったらしいフレーズをやめて簡潔にすること
4. 前置詞先頭の句をベタベタと連結しないこと
5. it is, と there is という表現は曖昧になるから、なるべく避けること
6. 抽象的な名詞は、できるだけ使わないこと
7. 一見、高級そうな単語は使わず、基本単語を使うこと
8. 名詞をベタベタと連結はしないこと
9. 文章として完結していること(動詞のない文章はペケである)
10. 修飾語や修飾句はその修飾先の近くに置くこと
11. 1つの文章の中に概念の違うものは入れないこと
12. 代名詞をハッキリさせること  
(主語を指しているのか、目的語を指しているのか)
13. コンマの使い方をいい加減にしないこと
14. 1つの文章の中に同等の重要度を持つ句や節をたくさん入れないこと
15. 1つの文章の中に否定、肯定をゴチャ混ぜにしないこと、否定は1つにすること、など。

## 文書作成の3要素

文書を作成する目的は書かれている内容を受け手(読者)に理解してもらうことにある。そのためには下図のように「心・技・勇」の3要素が欠かせない。



## 英語に変換できる文書

世界で通用する英文文書を作成するためには文書編成と文章記述の流れを「世界の常識」に基づいて行う必要がある。

